

## 第 2 回日本小児へそ研究会の開催にあたって



第 2 回日本小児へそ研究会の開催にあたりご挨拶申し上げます。このような生まれたばかりの新しい研究会を開催できますことを大変光栄に存じますとともに、ご支援いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

最近の小児外科手術は、内視鏡手術の導入も相まって、各施設におきまして臍を利用してできるだけ小さく目立たない傷で治療をしようと、鋭意工夫されてきています。患者家族からもより整容性のある手術が求められる時代背景からも、へそにまつわる種々の疾患の治療、へそからのアプローチによる開腹手術や単孔式腹腔鏡下手術での工夫、美容上の成果などについて意見交換を行い、よりよい小児外科医療を提供することを目的として、この研究会が発足されました。2014 年の秋季シンポジウム開催中に発起人会をもち、研究会の名称を『日本小児へそ研究会』とし、第 1 回の研究会を 2015 年 4 月の外科学会定期学術集会の期間中に開催する運びとなりました。研究会の体も未熟でかつ準備期間も短いか、大塩猛人先生には第 1 回会長として有意義な会を開催していただきました。その後、研究会の会則を設け、施設会員制をとり入れるなど少しずつ体裁を整えつつあります。

今回の第 2 回へそ研究会も外科学会の中で開催させていただけることになり、第 116 回日本外科学会学術集会会頭の大阪大学大学院心臓血管外科 澤 芳樹教授には大変感謝申し上げます。午前中に幹事会と施設代表者会議を行い、午後から 3 時間の研究会をさせていただきます。今回は、テーマを手術手技にしぼって応募をお願いしましたところ、21 題の興味深い演題を頂戴しました。また、短い特別講演を本学麻酔学講座区域麻酔診療教授 中本達夫先生にお願いしました。臍を切る手術を行った場合、どのような局所麻酔をすればより有効な鎮痛が得られるかなど、臨床に即した具体的なお話が伺えるものと期待しております。

『へそ研』という略称で皆から愛される研究会を続けていけますよう、皆様からの温かいご支援と厳しいご指導を何卒よろしく願いいたします。

第 2 回日本小児へそ研究会 会長  
関西医科大学外科学講座小児外科  
濱田吉則